

<特集「他動性」>

他動性：チェコ語 Transitivity in Czech Language

松山 芳瑛
Hanae Matsuyama

東京外国語大学言語文化学部
School of Language and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿は特集「他動性」(『語学研究所論集』第26号, 2022, 東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は、50個のアンケート項目に対するチェコ語のデータを提供することである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘transitivity’ (*Journal of the Institute of Language Research* 26, 2022, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Czech data for the question of 50 phrases.

キーワード：他動性, チェコ語

Keywords: transitivity, Czech

1. はじめに

本稿では、チェコ語の「他動性」に関する例文を提示し、必要に応じて、風間(2014)の総論を基に、適宜その他の文献を参照しながら解説を加える¹。アンケートデータは、筆者が日本語からチェコ語へ訳したものを、調査協力者に適切かどうか判断してもらう方法で得られた。調査協力者は、少なくとも15歳までをボヘミア地方で過ごした、50代のチェコ語母語話者1名²である。最後に、略語一覧と、参考文献及び辞書³の一覧を載せる。グロス・日本語訳は断りの無い限り筆者による。

2. データ

【直接影響・変化】

(1a) 彼はそのハエを殺した。

Zabi-l-∅ t-u mouch-u.
kill.PFV-PST-M.SG DEM-F.SG.ACC fly.F-SG.ACC



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 参考文献中から引用する例に飾り文字が含まれる場合、全て本稿の字体に直して引用している。文頭文字の大きさや文末の句読点の有無も本稿に合わせている。また、アンケートデータ以外の例文に出典に関する記載がない場合、母語話者の発話から得られたものか、母語話者に容認度を確認しながら作成したものである。

² チェコ語のデータ作成にご協力いただいた本学チェコ語講師の立古ダニエラ先生に、心よりお礼を申し上げます。

³ 使用する辞書のうち、『チェコ語日本語辞典: チェコ語の宝ーコメンスキーの追憶に』は簡潔さを重視して本文中では『チェコ語日本語辞典』と記載する。

(1b) 彼はその箱を壊した.

Rozbi-l-∅ t-u krabic-i.
break.PFV-PST-M.SG DEM-F.SG.ACC box.F-SG.ACC

(1c) 彼はそのスープを温めた.

Ohřál-l-∅ t-u polévk-u.
heat.PFV-PST-M.SG DEM-F.SG.ACC soup.F-SG.ACC

(1d) 彼はそのハエを殺したが, 死ななかった.

*Zabi-l-∅ t-u mouch-u, ale ona ne=chcíp-l-a⁴.
kill.PFV-PST-M.SG DEM-F.SG.ACC fly.F-SG.ACC but F.3SG.NOM NEG=die.PFV-PST-F.SG

(1d') 彼はそのハエを殺そうとしたが, 死ななかった.

Zkusi-l-∅ zab-ít t-u mouch-u, ale ona
try.PFV-PST-M.SG kill.PFV-INF DEM-F.SG.ACC fly.F-SG.ACC but F.3SG.NOM
ne=chcíp-l-a.
NEG=die.PFV-PST-F.SG

いずれの例文においても影響が及ぶ対象は対格をとり, 高い他動性を示している. チェコ語では日本語と同様に, 「殺したが死ななかった」という言い方は不可能である (1d). *zkusit* 「~ (すること)を試みる」, *chtít* 「~が欲しい・~したい」と併用して「殺そうとしたが」「殺したかったが」などとする必要がある (1d').

【直接影響・無変化】

(2a) 彼はそのボールを蹴った.

Kop-l-∅ do t-oho míč-e.
kick.PFV-PST-M.SG into DEM-M.SG.GEN ball.M-SG.GEN

(2b) 彼女は彼の足を蹴った.

Kop-l-a ho do noh-y.
kick.PFV-PST-F.SG M.3SG.ACC.CLT into leg.F-SG.GEN

(2a) において対象は生格前置詞句をとっている. 一方 (2b) では, 対象 (部分) は生格前置詞句をとり, 所有者 (全体) は対格で表されている.

(2c) 彼はその人に故意にぶつかった.

Vrazi-l-∅ do t-oho člověk-a naschvál.
bump.into.PFV-PST-M.SG into DEM-M.SG.GEN person.M-SG.GEN on.purpose

⁴ チェコ語では, 人間の場合と動物の場合で動詞「死ぬ」を区別する. 基本的に, 人間には *zemřít* や *umřít*, 動物には *chcípnout* や *pojit* などを用いる (*PSJČ*に基づく).

(2d) 彼はその人とうっかりぶつかった。

Vrazi-l-∅ do t-oho člověk-a nevědomky.
bump.into.PFV-PST-M.SG into DEM-M.SG.GEN person.M-SG.GEN inadvertently

意志の有無にかかわらず文は同じ構造をとっており、意志性は副詞によって表されている。

【知覚 2A vs. 2B】

(3a) あそこに人が数人見える。

Je tam vid-ět pár lid-í.
COP.3SG.PRS there see.IPFV-INF some peopl.M-PL.GEN

(3b) 私はその家を見た。

i. 意識して見た場合

Podíva-l-∅ jsem se na t-en dům-∅.
look.PFV-PST-M.SG AUX.1SG at DEM-M.SG.ACC house.M-SG.ACC

ii. 自然と目に入った場合

Vidě-l-∅ jsem t-en dům-∅.
see.IPFV-PST-M.SG AUX.1SG DEM-M.SG.ACC house.M-SG.ACC

(3c) 誰かが叫んだのが聞こえた。

By-l-∅ slyš-et něč-í křik-∅.
COP-PST-M.SG hear.IPFV-INF someone's-M.SG.NOM scream.M-SG.NOM

(3d) 彼はその音を聞いた。

i. 意識して聞いた場合

Posloucha-l-∅ t-en zvuk-∅.
listen.to.IPFV-PST-M.SG DEM-M.SG.ACC sound.M-SG.ACC

ii. 自然と耳に入った場合

Slyše-l-∅ t-en zvuk-∅.
hear.IPFV-PST-M.SG DEM-M.SG.ACC sound.M-SG.ACC

まず (3b, d) に関して述べると、チェコ語では、意識して見る・聞く場合（能動知覚）と、自然と見える・聞こえる場合（受動知覚）とで、異なる動詞を使い分ける。「聞く／聞こえる」の場合は能動知覚・受動知覚いずれも対格をとり他動性が高いが、「見る／見える」の場合は受動知覚の方が能動知覚より高い他動性を示す。

知覚は、(3a, c) のように、コンピュータと動詞の不定形の組み合わせによって表すことも可能である。チェコ語には {コンピュータの3人称単数形+知覚動詞の不定形+対象名詞⁵} で可能を表す無人称構文が存在

⁵ Grepl and Karlík (1988: 119) 及び金指 (2010: 163) の記述を総合すると、対象名詞は不定形の動詞が要求する形で現れると言える。例: Nebylo mu(DAT) rozumět. 「彼の言うことは理解できなかった。」(例文は Grepl and Karlík (1988: 119)

する (Grepl and Karlík (1988: 119), 金指 (2010: 163) に基づく)。金指 (2010: 163) によると、口語では、対象名詞に主格をとらせて人称文にしたり、現在時制においてコピュラを省略したりすることがあるといい、母語話者自身も普段は主格形を用いると述べている。そのため、本稿でも主格形の方を掲載している。金指 (2010: 163) によると、この構文には一般性のニュアンスがある。

なお、母語話者曰く、(3b-ii, d-ii) と同様に (3a, c) にも知覚者を主語にそれぞれ *vidět* 「見える」、*slyšet* 「聞こえる」を用いることができ、(3c) に関しては、*slyšet*+従属文 (3c') や動作主を対格目的語にした表現 (3c'') も自然である。

(3c')

Slyše-l-∅	jsem,	jak	někdo	křič-í.
hear.IPFV-PST-M.SG	AUX.1SG	CONJ	someone.NOM	cry.IPFV-3SG.PRS

(3c'')

Slyšel	jsem	někoho	křič-et.
hear.IPFV-PST-M.SG	AUX.1SG	someone.ACC	cry.IPFV-INF

【(知覚 2A) 発見・獲得・生産など】

(4a) 彼はなくしたカギを見つけた。

Naše-l-∅	ztracen-ý	klíč-∅.
find.PFV-PST-M.SG	lost-M.SG.ACC	key.M-SG.ACC

(4b) 彼は椅子を作った。

Vyrobi-l-∅	židl-i.
make.PFV-PST-M.SG	chair.F-SG.ACC

【追及】

(5a) 彼はバスを待っている。

Ček-á	na	autobus-∅.
wait.IPFV-3SG.PRS	for	bus.M-SG.ACC

(5b) 私は彼が来るのを待っていた。

Čeka-l-∅	jsem	na	něj,	až	přijd-e.
wait.IPFV-PST-M.SG	AUX.1SG	for	M.3SG.ACC	until	come.PFV-3SG.PRS

(5c) 彼は財布を探している。

Hled-á	peněženk-u.
look.for.IPFV-3SG.PRS	wallet.F-SG.ACC

より引用), *Odtud je vidět až za(beyond) hranice(ACC)*. 「ここからは国境の向こうまで見える。」(例文・日本語訳ともに金指 (2010: 163) より引用).

【知識 1】

(6a) 彼はいろんなことをよく知っている。

Zn-á dobře různ-é věc-i.
know.IPFV-3SG.PRS well various-F.PL.ACC thing.F-PL.ACC

(6a') 彼はいろんなことに精通している。

Vyzn-á se v různých věcech.
know.way.around.IPFV-3SG.PRS in various-F.PL.LOC thing.F-PL.LOC

(6b) 私はあの人を知っている。

Zn-ám t-oho člověk-a.
know.IPFV-1SG.PRS DEM-M.SG.ACC person.M-SG.ACC

知識の対象は基本的に対格をとる (6a, b) が, 「よく知っている・精通している」という意味の動詞 *vyznat se* を用いる場合は, 前置格前置詞句をとる (6a').

(6c) 彼はロシア語ができる。

Um-i rusky.
can.IPFV-3SG.PRS in.Russian

「～語ができる」は, 叙法の動詞 *umět* 「(能力があって) できる」と「～語で」を表す副詞を組み合わせる。

【知識 2】

(7a) あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか?

Pamat-ujete si, co jsem vám včera řek-l-ø?
remember.IPFV-2PL.PRS REFL.DAT.CLT what.ACC AUX.1SG 2PL.DAT yesterday say.PFV-PST-M.SG

(7b) 私は彼の電話番号を忘れてしまった。

Zapomně-l-ø jsem jeho telefonn-í čísl-o.
forget.PFV-PST-M.SG AUX.1SG his phone-N.SG.ACC number.N-SG.ACC

【感情 1】

(8a) 母は子供たちを深く愛していた。

Matk-a hluboce milova-l-a dět-i.
mother.F-SG.NOM profoundly love.IPFV-PST-F.SG children.F-PL.ACC

(8b) 私はバナナが好きだ。

M-ám rád-ø banán-y.
have.IPFV-1SG.PRS be.fond.of-M.SG banana.M-PL.ACC

(8c) 私はあの人が嫌いだ.

Nesnáš-ím t-oho člověk-a.
hate.IPFV-1SG.PRS DEM-M.SG.ACC person.M-SG.ACC

好き嫌いは基本的に、「～を愛する」、「～を嫌う」といった動詞や、所有の動詞+形容詞 *rád* 「喜んで、好きだ」+対象名詞対格形の組み合わせによって表される。「私はあの人が好きではない」という意味では、(8c) は (8b) と同じ文構造で *Nemám rád toho člověka.* とすることもできる。

気に入られる（気に入られない）対象を主格，何かを気に入る（気に入らない）人を与格で表すことも可能である (8c').

(8c') 私はあの人が気に入らない.

T-en člověk-ø se mi ne=líb-i.⁶
DEM-M.SG.NOM person.M-SG.NOM REFL.ACC.CLT 1SG.DAT.CLT NEG=tolerate.IPFV-3SG.PRS

【感情 2】

(9a) 私は靴が欲しい.

Chc-i bot-y.
want.IPFV-1SG.PRS shoe.F-PL.ACC

欲求は動詞 *chtít* 「～が欲しい・～したい」を用いて表す.

(9b) 今、彼にはお金が要る.

Ted' potřeb-uje peníz-e.
now need.IPFV-3SG.PRS money.M-PL.ACC

必要・不必要は、「～（すること）が必要だ」という意味の動詞 *potřebovat* で表す。その他には、コピュラと副詞又は形容詞を用いた無人称文で表すことも可能である（金指 2010: 166）。以下に例を示す。

(9b') それはすぐに変える必要がある。（コピュラ+副詞/形容詞+動詞の不定形の例）

Je {třeba / nutno / t-o hned změň-it.⁷
COP.3SG.PRS necessary necessary-N.SG.NOM DEM-N.SG.ACC immediately change.PFV-INF

(9b'') 用心が必要だ。（コピュラ+副詞+名詞の例）

Je třeba opatrnost-i.⁸
COP.3SG.PRS necessary caution.F-SG.GEN

⁶ 母語話者によれば、この文は文脈によって、その人物の容姿や態度が気に入らない、その人物は怪しい、具合が悪そうだ、といった様々な解釈があり、単なる「気に食わない」の意にとどまらないという。

⁷ 例と訳は金指 (2010: 166) から引用し、例には筆者が手を加えた。

⁸ 例は SSČ における „třeba“ の項目から引用した。『チェコ語日本語辞典』における „třeba“ の項目によると、名詞は生格（稀に主格）をとる。

【感情 3】

(10a) (私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている。

Matk-a	se	zlob-i,	že	jí	m-ůj
mother.F-SG.NOM	REF.ACC.CLT	annoy.IPFV-3SG.PRS	CONJ	F.3SG.DAT	my-M.SG.NOM
mlad-š-i	bratr-∅	lha-l-∅.			
young-COMP-M.SG.NOM	brother.M-SG.NOM	lie.IPFV-PST-M.SG			

zlobit se 「怒る」は対格支配の他動詞 zlobit 「～を怒らせる」に再帰代名詞が付加されたものである。怒る対象が名詞で表せる場合は対格前置詞句で表す（例：Nezlob se na mne(ACC). 私に怒らないで。⁹⁾。他にも rozčilit 「～を怒らせる」という対格支配の他動詞が存在するが、こちらも「怒る」場合は再帰代名詞を用い、怒る原因となったものを造格前置詞句で表す（例：Rozčilil se nad dopisem(INS). 彼は手紙を読んで怒った。¹⁰⁾。

(10b) 彼は犬が怖い。

Boj-i	se	ps-a.
fear.IPFV-3SG.PRS		dog.M-SG.GEN

恐れる対象は生格で表される。

【関係 1】

(11a) 彼は父親に似ている。

Je	podobn-ý	otc-i.
COP.3SG.PRS	similar-M.SG.NOM	father.M-SG.DAT

Podob-á	se	otc-i.
resemble.IPFV-3SG.PRS		father.M-SG.DAT

「～に似ている」を表す表現としては、与格支配の形容詞及び動詞が用いられる。

(11b) 海水は塩分を含んでいる。

Mořsk-á	vod-a	obsah-uje	sůl-∅.
sea-F.SG.NOM	water.F-SG.NOM	contain.IPFV-3SG.PRS	salt.F-SG.ACC

含有関係には他動表現が用いられる。

【関係 2】

(12a) 私の弟は医者だ。

M-ůj	mlad-š-i	bratr-∅	je	lékař-∅.
my-M.SG.NOM	young-COMP-M.SG.NOM	brother.M-SG.NOM	COP.3SG.PRS	doctor.M-SG.NOM

⁹⁾ 例と訳は『チェコ語日本語辞典』における „zlobit se“ の項目から引用し、筆者が手を加えた。

¹⁰⁾ 例と訳は『チェコ語日本語辞典』における „rozčilit se“ の項目から引用した。

(12b) 私の弟は医者になった。

M-új mlad-š-í bratr-ø se sta-l-ø
my-M.SG.NOM young-COMP-M.SG.NOM brother.M-SG.NOM become.PFV-PST-M.SG
lékař-em.
doctor.M-SG.INS

いずれの文でもコンピュータとして *být* 「～である」、*stát se* 「～になる」が現れている。職業について述べる場合、*být* は主格又は造格、*stát se* は造格を要求する。

být と結びつく名詞の格に関して、金指 (2010: 79) は、1) 造格の方が文語的であること、そして 2) 主格はどのような職種や社会階層に属しているかに焦点を当てているのに対し、造格はどのような活動をしているのかに焦点を当てている、という違いがあると述べている。2) を言い換えると、主格は比較的長期間の、造格は一時的な特性を表すということである (Karlík (2000: 404) に基づく)。例えば、*Jeho otec je učitel(NOM)* 「彼の父は (ずっと) 教師をしている」×*Jeho otec je učitelem(INS)* 「彼の父は (今は) 教師をしている」¹¹。

【能力 1】

(13a) 彼は車の運転ができる。

Um-í říd-it.¹²
can.IPFV-3SG.PRS drive.IPFV-INF

(13b) 彼は泳げる。

Um-í plav-at.
can.IPFV-3SG.PRS swim.IPFV-INF

能力は基本的に叙法の動詞 *umět* 「(能力があつて) できる」+動詞の不定形の組み合わせで表す。なお、可能には叙法の動詞 *mocet* を用いる¹³。(13a) は能力的に運転できることを示しているが、例えば「飲酒していないので運転できる」などと言いたい場合は *Může řídit.* とする必要がある。

(13b) に関して、母語話者への調査の際に、動作名詞を主語とした少し異なるニュアンスの文が得られたため、以下に挙げる。

(13b') 彼は泳ぎが上手くなってきている。

Jd-e mu plaván-í.
go.IPFV-3SG.PRS M.3SG.DAT.CLT swimming.N-SG.NOM

「泳ぐこと」を主語に動詞 *jít* 「行く」を用いたこの文は、母語話者によると泳ぎが上手くなる過程にあることを表すという。

¹¹ これらの例は Karlík (2000: 404) より引用した。

¹² 母語話者によると、車を運転することを表す際、目的語 *auto* 「車」はなくても良い。

¹³ *umět* と *mocet* の違いについては金指 (2010: 162, 164) に基づく。

【能力 2】

(14a) 彼は話をするのが上手だ.

Um-i dobře mluv-it.
can.IPFV-3SG.PRS well speak.IPFV-INF

(14b) 彼は走るのが苦手だ.

Ne=um-í dobře běh-at.
NEG=can.IPFV-3SG.PRS well run.IPFV-INF

上手・下手は叙法の動詞 *umět* + 副詞 + 動詞の不定形で表す。(14b) は, *Nejde mu běh.* のように (13b') と同じく *běh* 「走ること」を主語にした表現も可能であるが, 母語話者曰く「体育種目としての駆け足が上手くない」といったニュアンスがある. なお, その場合は「上達の過程にある」というニュアンスは無いという.

【移動】

(15a) 彼は学校に着いた.

Přiše-l-∅ do škol-y.
come.PFV-PST-M.SG into school.F-SG.GEN

(15b) 彼は道を渡った／横切った.

Přeše-l-∅ (přes) ulic-i.
go.across.PFV-PST-M.SG across street.F-SG.ACC

(15c) 彼はこの道を通った.

Še-l-∅ t-ou ulic-í.
go.IPFV-PST-M.SG DEM-F.SG.INS street.F-SG.INS

(15a) の「到着」には前置詞が表れているが, (15c) の「経由」には表れておらず, (15b) の「横断」には前置詞を用いる形式と用いない形式が存在する. 風間 (2014: 51-52) の記述に照らし合わせると, チェコ語では「到着」には自動詞的表現, 「経由」には他動詞的表現, 「横断」にはその両方が用いられると言える.

【感覚 1】

(16a) 彼はお腹を空かしている.

M-á hlad-∅.
have.IPFV-3SG.PRS hunger.M-SG.ACC

(16b) 彼は喉が渇いている.

M-á žízeň-∅.
have.IPFV-3SG.PRS thirst.F-SG.ACC

飢え・渇きの感覚は, 所有の動詞 + 名詞「空腹／喉の渇き」の他動表現によって表す.

【感覚 2】

(17a) 私は寒い.

Je mi zima.
COP.3SG.PRS 1SG.DAT.CLT cold

(17b) 今日は寒い.

Dnes je zima.
today COP.3SG.PRS cold

他方、寒暖の感覚はコピュラを用いた無人称構文で表す。Grepł and Karlík (1988: 117-118) によると、チェコ語では、周辺環境の状態や心身の状態・感覚は {コピュラの 3 人称単数形+状態を表す副詞¹⁴} の無人称構文で表され、何等かの感覚を覚える人は与格をとることが最も多い。

【(社会的) 相互行為 1】

(18a) 私は彼を手伝った/助けた.

Pomoh-l-∅ jsem mu.
help.PFV-PST-M.SG AUX.1SG M.3SG.DAT.CLT

(18b) 私は彼がそれを運ぶのを手伝った.

Pomoh-l-∅ jsem mu t-o odněs-t.
help.PFV-PST-M.SG AUX.1SG M.3SG.DAT.CLT DEM-N.SG.ACC carry.away.PFV-INF

チェコ語における動詞「手伝う・助ける」は、助ける相手として与格を要求する。手伝う内容は動詞の不定形や造格前置詞句で表される。以下に造格前置詞句を用いた例を挙げる。

(18b') 私は彼の宿題を手伝った.

Pomoh-l-∅ jsem mu s domác-ím úkol-em.
help.PFV-PST-M.SG AUX.1SG M.3SG.DAT.CLT with home-M.SG.INS assignment.M-SG.INS

【(社会的) 相互行為 2 (言語行動)】

(19a) 私はその理由を彼に聞いた.

Zepta-l-∅ jsem se ho na t-en důvod-∅.
ask.PFV-PST-M.SG AUX.1SG M.3SG.GEN.CLT on DEM-M.SG.ACC reason.M-SG.ACC

尋ねる相手は生格、尋ねる内容は対格前置詞句をとる。

¹⁴ 例文中の副詞以外には、例えば *sucho* 「乾燥している」、*blátivo* 「ぬかるんでいる」、*hlučno* 「うるさい」、*pěkně* 「素晴らしい」、*smutno* 「悲しい」、*dobře* 「気分・体調が良い」などの副詞も用いられる。一部の副詞は語末に -o をとることで、「どのように」を表す副詞と意味・機能・形式的に区別される。例えば、*Je mi smutno.* 「私は悲しい。」×*Tváří se smutně.* 「悲しそうな顔をする。」。これらは Grepł and Karlík (1988: 117) に基き、例も同箇所から引用した。

(19b) 私はそのことを彼に話した.

Řek-l-∅ jsem mu t-o.
say.PFV-PST-M.SG AUX.1SG M.3SG.DAT.CLT DEM-N.SG.ACC

話す相手は与格, 話す内容は対格をとる.

【再帰・相互】

(20a) 私は彼と会った.

i. 偶然

Potka-l-∅ jsem ho.
meet.PFV-PST-M.SG AUX.1SG M.3SG.ACC.CLT

ii. 会う約束をして

Setka-l-∅ jsem se s ním.
meet.PFV-PST-M.SG AUX.1SG with M.3SG.INS

チェコ語では, 偶然誰かに会う場合と約束をして会う場合とで, 格支配も異なる別の動詞を使い分ける. 約束をして会う場合は相手を造格前置詞句で表し, 動詞は再帰代名詞を伴うが, 偶然会う場合は相手を対格で表し, 約束して会う場合よりも高い他動性を示す.

略語一覧

ACC 対格 / AUX 補助動詞 / CLT 前接形 / COMP 比較級 / CONJ 接続詞 / COP コピュラ / DAT 対格 / DEM 指示詞 / F 女性 / GEN 生格 / INF 不定形 / INS 造格 / IPFV 不完了体 / LOC 前置格 / M 男性 / N 中性 / NEG 否定 / NOM 主格 / PFV 完了体 / PL 複数 / PRS 現在 / PST 過去 / REFL 再帰代名詞 / SG 単数 / 1 1人称 / 2 2人称 / 3 3人称

参考文献

風間伸次郎 (2014) 「企画: 特集「他動性」まえがき」東京外国語大学『語学研究所論集』第 19 号, 33-59.

金指久美子 (2010) 『中級チェコ語文法』東京: 白水社.

Karlík, Petr (2000) Věta (Syntax). In: Petr Karlík et al. (eds.) *Příruční mluvnice češtiny*. Second edition, 369-568. Praha: Nakladatelství lidové noviny.

Grepl, Miroslav and Petr Karlík (1988) *Skladba spisovné češtiny*. Praha: Státní pedagogické nakladatelství.

辞書

石川達夫 (編) (2019) 『チェコ語日本語辞典: チェコ語の宝ーコメンスキーの追憶に』第 2 版. 神奈川: 成文社.

Filipec, Josef et al. (eds.) (2018) *SSČ: Slovník spisovné češtiny pro školu a veřejnost*. Fourth edition. Praha: Academia.

Hujer, Oldřich et al. (eds.) *PSJČ: Příruční slovník jazyka českého*. Praha: Ústav pro jazyk český.
<https://psjc.ujc.cas.cz/search.php> [2021 年 12 月 9 日アクセス].

執筆者連絡先 : hana.ceskairepublika@gmail.com

原稿受理 : 2021 年 12 月 10 日